

工 事 成 績 採 点 表（ 建築工事 ）

令和8年7月1日 作成
千 曲 市

工事名		令和○年度 ○○工事						契約金額(最終)						¥10,000,000																									
請負者名		○○株式会社 代表取締役 △△						工 期						令和8年4月1日						令和8年7月1日						完成年月日		令和8年7月1日											
考 査 項 目		監 督 員						工事所管課長																		しゅん工検査員（しゅん工）													
		氏名		○○課		□□□□		㊞	氏名		○○課長		□□□□		㊞	氏名		—		㊞	氏名		—		㊞	氏名		○○課		□□□□		㊞							
項目	細別	a	b	c	d	e	評価	a	a'	b	b'	c	d	e	評価	a	a'	b	b'	c	d	e	評価	a	a'	b	b'	c	d	e	評価								
1. 施工体制	I 施工体制一般	+1.0	+0.5	0	-5	-10	d																																
	II 配置技術者	+3.0	+1.5	0	-5	-10	d																																
2. 施工状況	I 施工管理	+4.0	+2.0	0	-5	-10	d									+5	-	+2.5	-	0	-7.5	-15		+5	-	+2.5	-	0	-7.5	-15		+5	-	+2.5	-	0	-7.5	-15	d
	II 工程管理	+4.0	+2.0	0	-5	-10	d	+2.0		+1.0		0	-7.5	-15	c																								
	III 安全対策	+5.0	+2.5	0	-5	-10	d	+3.0		+1.5		0	-7.5	-15	c																								
	IV 対外関係	+2.0	+1.0	0	-2.5	-5	d																																
3. 出来形 及び 出来ばえ	I 出来形	+4.0	+2.0	0	-2.5	-5	d									+10	+7.5	+5	+2.5	0	-10	-20		+10	+7.5	+5	+2.5	0	-10	-20		+10	+7.5	+5	+2.5	0	-10	-20	d
	II 品質	+5.0	+2.5	0	-2.5	-5	d									+15	+12	+7.5	+4.0	0	-12.5	-25		+15	+12	+7.5	+4.0	0	-12.5	-25		+15	+12	+7.5	+4.0	0	-12.5	-25	d
	III 出来ばえ															+5	-	+2.5	-	0	-5	-		+5	-	+2.5	-	0	-5	-		+5	-	+2.5	-	0	-5	-	c
4. 工事特性	I 施工条件等への対応(※2)							0							0																								
5. 創意工夫	I 創意工夫(※3)	0			-	-	0																																
6. 社会性等	I 地域へ貢献等(※4)							+10	+7.5	+5	+2.5	0			c																								
加減点合計（1+2+3+4+5+6）		-32.5 点						0.0 点						点						点						#N/A 点													
評 定 点 （※1）		① 32.5 点						② 65.0 点						③ 点						③ 点						④ #N/A 点													
7. 評定点計(※5)		#N/A		#N/A		#N/A		#N/A		#N/A		#N/A		#N/A		#N/A		#N/A		#N/A		#N/A		#N/A		#N/A		#N/A		#N/A		#N/A		#N/A		#N/A			
		※ 既済部分		(中間) 検査があった場合		(①+②+③×0.5+④×0.5)		＝細目別評定点（既済、中間が2回以上の場合は③を平均する。																															
		※ 既済部分		(中間) 検査がなかった場合		(①+②+④)		＝細目別評定点																															
8. 法令遵守等(※6)			0	点		法令遵守等の該当事由																																	
9. 評 定 点 合 計 (※7)		40.0		点		評定点計（40点）－7.法令遵守等（0点）＝40点（1回完済分0点、2回完済分0点、完成分40点）																																	
所 見 (※8)		監 督 員																																					
		工事所管課長																																					
		しゅん工検査員																																					

※1 65点+加減点合計（1+2+3+4+5+6）とする。
各評定点（①～④）は小数第1位まで記入する。

※2 **工事特性**は、当該工事特有の難度の高い条件（構造物の特殊性、特殊な技術、都市部等の作業環境・社会条件、厳しい自然・地盤条件、長期工事における安全確保等）に対して適切に対応したことを評価する項目である。
評価に際しては、監督員からの報告を受けて工事所管課長が評価するものとする。

※3 **創意工夫**は、工事特性のような難度を伴わない工事において、企業の工夫やノウハウにより特筆すべき便益があった場合に評価する項目である。

※4 **社会性等**の評価では地域への貢献等の観点から、加点評価のみとする。

※5 既済部分（中間）検査があった場合：（① 点×0.4+② 点×0.2+③ 点×0.2+④ 点×0.2）＝ 点 ※ただし、③（既済、中間）が2回以上の場合は平均値

※6 各考查項目ごとの採点は、別紙－1運用表によるものとし、しゅん工検査員の評価に先立ち、監督員、所管工事課長が行う。

※7 **法令遵守等**は減点評価のみとし、評価は工事所管課長が完成検査時に行う。

※8 評定点合計は、四捨五入により整数とする。

※9 所見欄には評定結果の概要を記載する。

別記様式第2

細目別評定点採点表

項目	細別	①監督員	②工事所管課長	③しゅん工検査員 (既済・中間)	③しゅん工検査員 (既済・中間)	④しゅん工検査員 (完成)	細目別評定点	得点割合
1. 施工体制	I. 施工体制一般	$(-5) \times 0.4 + 2.9$ = 0.9 点					0.9 3.3点	2.3%
	II. 配置技術者	$(-5) \times 0.4 + 2.9$ = 0.9 点					0.9 4.1点	2.3%
2. 施工状況	I. 施工管理	$(-5) \times 0.4 + 2.9$ = 0.9 点		$(\quad) \times 0.4 + 6.5$ = 点	$(\quad) \times 0.4 + 6.5$ = 点	$(-7.5) \times 0.4 + 6.5$ = 3.5 点	4.4 13点	11.0%
	II. 工程管理	$(-5) \times 0.4 + 2.9$ = 0.9 点	$(0) \times 0.2 + 3.2$ = 3.2 点				4.1 8.1点	10.3%
	III. 安全対策	$(-5) \times 0.4 + 2.9$ = 0.9 点	$(0) \times 0.2 + 3.3$ = 3.3 点				4.2 8.8点	10.5%
	IV. 対外関係	$(-2.5) \times 0.4 + 2.9$ = 1.9 点					1.9 3.7点	4.8%
3. 出来形及び 出来ばえ	I. 出来形	$(-2.5) \times 0.4 + 2.8$ = 1.8 点		$(\quad) \times 0.4 + 6.5$ = 点	$(\quad) \times 0.4 + 6.5$ = 点	$(-10) \times 0.4 + 6.5$ = 2.5 点	4.3 14.9点	10.8%
	II. 品質	$(-2.5) \times 0.4 + 2.9$ = 1.9 点		$(\quad) \times 0.4 + 6.5$ = 点	$(\quad) \times 0.4 + 6.5$ = 点	$(-12.5) \times 0.4 + 6.5$ = 1.5 点	3.4 17.4点	8.5%
	III. 出来ばえ			$(\quad) \times 0.4 + 6.5$ = 点	$(\quad) \times 0.4 + 6.5$ = 点	$(0) \times 0.4 + 6.5$ = 6.5 点	6.5 8.5点	16.3%
4. 工事特性	I. 施工条件等への対応		$(0) \times 0.2 + 3.3$ = 3.3 点				3.3 7.3点	8.3%
5. 創意工夫	I. 創意工夫	$(0) \times 0.4 + 2.9$ = 2.9 点					2.9 5.7点	7.3%
6. 社会性等	I. 地域への貢献等		$(0) \times 0.2 + 3.2$ = 3.2 点				3.2 5.2点	8.0%
7. 法令遵守等			$(0) \times 1.0$ = 0 点				0	
評定点合計							40.0 100点	

※ 既済部分（中間）検査があった場合 $(①+②+③ \times 0.5 + ④ \times 0.5) =$ 細目別評定点（既済、中間が2回以上の場合は③を平均する）。

※ 既済部分（中間）検査がなかった場合 $(①+②+④) =$ 細目別評定点

※ 得点割合は、細目評定点の合計に対する得点の割合を百分率で示す。

審査項目	細 別	対象	評価対象項目
1. 施工体制	I. 施工体制一般	☒	☐ ①作業の分担の範囲が、下請業者を含め、書面に明確に記載されている。
		☒	☐ ②品質管理体制が、書面に適切に記載されている。
		☒	☐ ③安全管理体制が、書面に適切に記載されている。
		☒	☐ ④現場の施工体制(品質管理、安全管理を含む)が、書面と一致している。
		☒	☐ ⑤工事規模に応じた人員、機械配置がなされ施工している。
		☒	☐ ⑥建設業退職金共済制度(建退共)の趣旨を下請業者等に説明するとともに、証紙の購入が適切に行われ、配布が受け払い簿等により適切に把握されている。
		☒	☐ ⑦元請業者が、下請業者の施工結果を十分に検査している。
		☒	☐ ⑧現場における施工体制に対し、本支店等による十分な支援体制を整え実施している。
		☒	☐ ⑨「施工プロセス」チェックリストのうち、施工体制一般について指示事項が無い。または指示事項に対する改善が速やかに実施されている。
		☐	☐ ⑩その他
			理由:
			(減点)該当すればd評価とする。
			☐ 施工体制一般に関して、監督職員から文書による改善指示を行った。
			(減点)該当すればe評価とする。
			☐ 施工体制一般に関して、監督職員からの文書による改善指示に従わなかった。
評価			
a: 施工体制が優れている。 b: 施工体制が良好である。 c: 施工体制が適切である。 d: 施工体制がやや不適切である。 e: 施工体制が不適切である。			
該当項目が90%以上 a		①	「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
該当項目が80%以上90%未満 b		②	削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
該当項目が60%以上80%未満 c		③	評価値(%)＝(評価数÷対象評価項目数)×100
該当項目が60%未満 d			
	評価＝ d	0項	9 項目 0%

評価に係る観点(運用)	
①	施工体制台帳及び施工体系図を適切に作成している工事は評価「レ」し、作成の必要があるのにしていない場合は空白「□」とする。 下請金額総額3,000万円(建築一式4,500万円)未満の工事は施工計画書等による確認が出来れば評価する。
②	品質を管理するための体制(計画、検査、記録等)が明確になっている工事は評価「レ」する。
③	安全を管理するための体制が明確になっている場合は評価「レ」する。
④	施工体制台帳及び施工体系図又は施工計画書等による施工体制に関する記載の内容と現場が一致している場合は評価「レ」する。
⑤	人員・機械配置が不適切で、工程の遅れが見られた場合のみ空白「□」とし、それ以外の場合は評価「レ」する。
⑥	建退共の趣旨が下請業者等に適切に説明され、建退共の対象者の有無が確認できていて、証紙の管理が適切に行われている場合又は下請業者等が他の退職金制度に加入しているなど証紙の購入が不要な現場に対して、「証紙購入不要」の報告を受けた場合は評価「レ」する。 建退共の趣旨の説明を行わず、対象者の有無が確認できない場合及び対象者がいるのに配布していない場合、建退共の対象者がいないのに証紙を購入したのみの場合は空白「□」とする。
⑦	下請けの作業成果(出来形等)に対して、元請け自ら確認し、検査している場合は評価「レ」する。
⑧	元請が本・支店と現場間で、定例会議や店社バトルールを実施しており支援体制が整っていると認められる場合は評価「レ」する。
⑨	「施工プロセス」の「I. 施工体制一般」で指摘事項があり、改善が遅い場合や指摘事項が多い場合は空白「□」とする。
⑩	その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。

審査項目	細 別	対象	評価対象項目
1. 施工体制	Ⅱ. 配置技術者 (現場代理人等)	☒	☐ ①現場代理人として、工事全体の把握ができている。
		☒	☐ ②現場代理人として、監督職員への報告、協議等を書面で行っている。
		☒	☐ ③契約書、設計図書等を理解し、現場に反映して工事を行っている。
		☒	☐ ④工事請負契約書第18条(条件変更等)第1項(以下、「契約書第18条」という。)に基づく設計図書の照査を行っている。
		☒	☐ ⑤書類及び資料が適切に整理されている。
		☒	☐ ⑥作業環境、気象、地質条件等の把握及び対応に努めている。
		☐	☐ ⑦工事に必要な専門技術者を選任し、配置している。※1
		☒	☐ ⑧作業に必要な作業主任者を選任し、配置している。※2
		☒	☐ ⑨主任(監理)技術者として技術的判断に優れ、良好な施工に努めている。
		☒	☐ ⑩施工体制、施工状況を把握し、下請け、部下等をよく指導している。
		☒	☐ ⑪施工等に伴う提案又は工夫をもって工事を進めている。
		☒	☐ ⑫「施工プロセス」チェックリストのうち、施工体制一般について指示事項が無い。または指示事項に対する改善が速やかに実施されている。
		☐	☐ ⑬その他
			理由:
			(減点)該当すればd評価とする。
			☐ 配置技術者に関して、監督職員から文書による改善指示を行った。
			(減点)該当すればe評価とする。
			☐ 配置技術者に関して、監督職員からの文書による改善指示に従わなかった。
評価			
a:配置技術者として優れている。 b:配置技術者として良好である。 c:配置技術者として適切である。 d:配置技術者としてやや不適切である。 e:配置技術者として不適切である。			
該当項目が90%以上 …… a		① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。	
該当項目が80%以上90%未満 …… b		② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。	
該当項目が60%以上80%未満 …… c		③ 評価値 (%)＝(評価数÷対象評価項目数)×100	
該当項目が60%未満 …… d			
	評価＝ d	0項	11 項目 0%

評価に係る観点(運用)	
①	工事内容を把握しており、監督職員との打合せ、段階検査等の対応が適切であれば評価「レ」する。
②	通知、報告、申出等が書面で行われていれば評価「レ」する。(メール等の補助手段は、監督職員が書面扱いと認めた場合のみ適用する。)
③	理解度が悪い場合のみ空白「□」とし、よく理解していれば評価「レ」する。
④	照査を実施していることを確認できた場合は評価「レ」する。照査が実施されなかった事により手戻りが生じた場合のみ空白「□」とする。
⑤	見やすく整理されていれば評価「レ」する。
⑥	受注者の責による苦情、事故、手戻り等があった場合のみ空白「□」とし、それ以外は評価「レ」する。
⑦	選任が必要な工事で、通知書等が提出され、現場で確認できれば評価「レ」する。 配置を要しない現場の場合は、削除(対象を空白「□」)とする。→※1
⑧	作業主任者を配置しなければならない現場は、施工計画書等に作業の種類及び氏名が記載されており、作業主任者本人に資格者証の提示を求め、確認できれば評価「レ」する。配置を要しない現場の場合は、削除(対象を空白「□」)とする。→※2
⑨	手戻り、手直し(簡易なものを除く。)があれば空白「□」とし、技術上の管理が適切に行われている場合は評価「レ」する。
⑩	下請けの有無にかかわらず、施工状況を把握していることが確認出来れば評価「レ」する。部下等とは、現場職員の他に下請業者を含む。
⑪	施工等に伴う創意工夫又は提案を行う等、施工性、品質向上のための努力・姿勢があれば評価「レ」する。 品質等が向上したのであれば、別に「4. 工事特性」または「5. 創意工夫」でも評価できる。
⑫	「施工プロセス」の「Ⅱ.配置技術者」で指摘事項があり、改善が遅い場合や指摘事項が多い場合は空白「□」とする。
⑬	その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。

※1. 建築一式工事を施工する場合において、一式工事の内容である他の建設工事(専門工事)を自ら施工する時は、当該専門工事に関し資格を有する者を置くものとする。なお、主任技術者が当該専門工事の資格を有していれば、専門技術者を兼ねることができる。

※2. 作業主任者を専任すべき作業は、労働安全衛生法施行令第6条による。

考查項目	細 別	対象	評価対象項目
2. 施工状況	Ⅰ. 施工管理	☒	☐ ①契約書第18条に基づく設計図書の照査結果について、協議を行っている。
		☒	☐ ②施工計画書が、工事着手前（計画内容に変更が生じた場合を含む）に提出されている。
		☒	☐ ③施工計画書が、設計図書及び現場条件を反映した内容となっている。
		☒	☐ ④施工計画書に、出来形・品質確保のための記載がある。
		☒	☐ ⑤施工計画書に基づき、日常の出来形・品質の管理を適切に行っている。
		☒	☐ ⑥施工図作成にあたり、関連工事と遅滞なく、調整が十分に図られている。
		☒	☐ ⑦工事打合せ書等の工事記録の整備が、適時に行われている。
		☒	☐ ⑧施工計画書の記載内容と現場施工方法が、一致している。
		☒	☐ ⑨一工程の施工の検査・確認の報告が、適時に行われている。
		☒	☐ ⑩現場内での整理整頓が、日常的に行われている。
	☒	☐ ⑪使用する建築材料（以下「材料」という）・設備機材（以下「機材」という）の調達の計画及び搬入後の管理が適切である。	
	☒	☐ ⑫社内検査が計画的に行われている。	
	☐	☐ ⑬独自のチェックリスト等の管理基準により、管理されている。	
	☐	☐ ⑭低騒音、低振動及び排出ガス対策型の建設機械及び車両を使用している。	
	☒	☐ ⑮建設廃棄物の処分及び建設副産物のリサイクルへの取り組みが、適切に行われている。	
	☒	☐ ⑯「施工プロセス」チェックリストのうち、施工体制一般について指示事項が無い。または指示事項に対する改善が速やかに実施されている。	
	☐	☐ ⑰その他	
		理由：	
			(減点) 該当すればd評価とする。
			☐ 施工管理に関して、監督職員から文書による改善指示を行った。
			(減点) 該当すればe評価とする。
			☐ 施工管理に関して、監督職員からの文書による改善指示に従わなかった。
評価			
a: 施工管理が優れている。 b: 施工管理が良好である。 c: 施工管理が適切である。 d: 施工管理がやや不適切である。 e: 施工管理が不適切である。			
該当項目が90%以上・・・・a		① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。	
該当項目が80%以上90%未満・・・・b		② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。	
該当項目が60%以上80%未満・・・・c		③ 評価値(%)＝(評価数／対象評価項目数)×100	
該当項目が60%未満・・・・d			
	評価＝ d	0項	14 項目 0%

評価に係る観点(運用)	
①	設計図書通りに施工できない事実を発見した場合は、工事打合せ簿等を作成し、発注者(監督職員を含む。)との協議により、現場変更または契約変更を適切に行っていれば評価「レ」する(又は現場変更等がなくても照査が適切に行われていた場合も評価する。)。
②	施工計画書が、工事着手前に提出される場合は、評価「レ」し、提出以前に次工程に進んでいる場合は空白「□」とする。
③	施工計画書が、設計図書の内容及び現場条件を反映したものとなっている場合は、評価「レ」し、記載不足や間違いが多い場合は空白「□」とする。
④	施工計画書等に出来形・品質確保のために確認する項目、検査時期、チェック表、工夫等が記載されている場合は評価「レ」する。
⑤	施工計画書に記載された品質確保のための記載内容が、現場に反映されていれば評価「レ」し、反映されていなければ空白「□」とする。
⑥	関連工事及び現場状況と調整された施工図が、遅滞なく作成されていれば評価「レ」する。
⑦	工事記録(工事打合せ簿、工事写真、材料搬入、施工報告、施工記録、試験記録等及び監督職員が指示したもの)が適時、的確に行われている場合は、評価「レ」する。
⑧	施工計画書の記載内容が施工方法と一致していれば評価「レ」する。
⑨	施工報告書での報告が適時行われ、出来形及び品質管理が適切であれば評価「レ」する。
⑩	場内の整理整頓の状態を観察し、判断する。
⑪	材料・機材の承諾図が事前に提出され、必要な時に必要な量を手配及び搬入しており、用途に合った適切な使用をし、搬入から引き渡しまでの管理状況が良ければ評価「レ」する。
⑫	適切な資格を持った社内検査員により適時、現場の検査が行われていれば評価「レ」する。
⑬	(発注基準を上回る)自社独自のチェックリスト等の管理基準を用いて、現場管理が日常的に行われていれば評価「レ」する。独自基準が無い場合は、適切に管理されていても評価項目の対象としない。
⑭	主要な建設機械に低騒音、低振動及び排出ガス対策型建設機械を使用していれば評価「レ」する。重機等を使用しない場合または供給者側の問題で調達できない場合等で監督職員に事前に報告があった場合は削除(対象を空白「□」)とする。
⑮	契約図書に則り、建設廃棄物、残土等の処理が適切でマニフェスト等により確認出来れば評価「レ」する。一般廃棄物(飲料空き缶、弁当がら等)については、現場の日常的な整理整頓で審査する。
⑯	「施工プロセス」の「Ⅰ. 施工管理」で指摘事項があり、改善が遅い場合や指摘事項が多い場合は空白「□」とする。
⑰	その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。

審査項目	細 別	対象	評価対象項目
2. 施工状況	Ⅱ. 工程管理	☒	☐ ①実施工程表が工事着手前に提出され、関連工事との調整も適切に行っている。
		☒	☐ ②現場での工程管理を詳細工程表やパソコン等を用いて、日常的に把握している。
		☒	☐ ③工程のフォローアップを実施し、請負者の責により関連工事及び入居官署等に対し、影響を及ぼす工程の遅れがない。
		☒	☐ ④現場または施工条件の変更への対応が積極的で、処理が早い。
		☒	☐ ⑤工程に関する各種制約等があるにもかかわらず、工期内にスムーズに作業を行っている。
		☒	☐ ⑥請負者の責による夜間や休日の作業がない。
		☒	☐ ⑦休日・代休の確保を行っている。
		☒	☐ ⑧近隣住民(入居官署等を含む)との調整を積極的に行い、円滑な工事進捗を行っている。
		☒	☐ ⑨「施工プロセス」チェックリストのうち、施工体制一般について指示事項が無い。または指示事項に対する改善が速やかに実施されている。
		☐	☐ ⑩その他 理由:
			(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 工程管理に関して、監督職員から文書による改善指示を行った。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 工程管理に関して、監督職員からの文書による改善指示に従わなかった。
評価			
a:工程管理が優れている。 b:工程管理が良好である。 c:工程管理が適切である。 d:工程管理がやや不適切である。 e:工程管理が不適切である。			
該当項目が90%以上・・・ a		① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。	
該当項目が80%以上90%未満・・・ b		② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。	
該当項目が60%以上80%未満・・・ c		③ 評価値(%)＝(評価数／対象評価項目数)×100	
該当項目が60%未満・・・ d			
	評価＝ d	0項	9 項目 0%

評価に係る観点(運用)	
①	工事着手前に実施工程表(工期全体の工程表)が提出されており、関連工事との調整が適切に行われていれば評価「レ」する。
②	月間・週間工程表等で工事の進捗を把握していれば評価「レ」する。
③	工程のフォローアップを行っている場合又は工程の遅れがなく、フォローアップが不要な場合も評価「レ」する。
④	変更の状況に応じて監督職員と協議し、速やかに適切に対応している場合は評価「レ」する。該当しない場合は削除(対象を空白「□」)とする
⑤	各種制約(作業時間の制限、車両通行規制等)のある中、スムーズに作業が行われた場合に評価「レ」し、制約がなかった場合については削除(対象を空白「□」)とする。
⑥	受注者の責による予定外の休日・夜間の作業がない場合は評価「レ」する。
⑦	適正工期、社会的要請、気象条件等の状況を踏まえた上、休日・代休の確保が行われている場合は評価「レ」する。
⑧	近隣住民(入居官署等を含む)に対して資料等を配布するなど工事に対する理解を求め、工程の調整を行った場合は評価「レ」する。不要な場合は削除(対象を空白「□」)とする。
⑨	「施工プロセス」の「Ⅱ. 工程管理」で指摘事項があり、改善が遅い場合や指摘事項が多い場合は空白「□」とする。
⑩	その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。

考査項目	細 別	対象	評価対象項目																														
2. 施工状況	Ⅲ.安全対策	☒ ☐ ①災害防止(工事安全)協議会等を設置し、1回／月以上活動し、記録が整備されている。	評価に係る観点(運用) <table><tr><td>①</td><td>災害防止協議会等の実施が、書面により確認できれば評価「レ」する。</td></tr><tr><td>②</td><td>バトロールの実施が書面により確認できれば評価「レ」する。</td></tr><tr><td>③</td><td>安全確認事項が適切で指摘がない、または指摘を受けたがその後の措置が適切であれば評価「レ」し、安全確認事項が不適切、または再三の改善指示があれば空白「□」とする。</td></tr><tr><td>④</td><td>法令等に基づく安全教育・訓練等の実施が書面により確認できれば評価「レ」する。</td></tr><tr><td>⑤</td><td>安全施工サイクルを日常的に励行し、安全衛生日誌などの書面により確認できれば評価「レ」する。</td></tr><tr><td>⑥</td><td>工事現場に関する教育資料等により確認できれば評価「レ」する。</td></tr><tr><td>⑦</td><td>安全のために現場の各工程において、その時その場に応じて、墜落・転落、飛来・落下、火災、感電等の対策を行っていれば評価「レ」する。</td></tr><tr><td>⑧</td><td>監督員による臨場又は写真等で確認できれば評価「レ」する。重機作業がない場合は削除(対象を空白「□」)とする。</td></tr><tr><td>⑨</td><td>点検及び管理状況の記録(チェックリスト等)があれば評価「レ」する。山留め等がない場合は削除(対象を空白「□」)とする。</td></tr><tr><td>⑩</td><td>点検及び管理状況の記録(チェックリスト等)があれば評価「レ」する。足場や支保工等仮設工事がない場合は削除(対象を空白「□」)とする。</td></tr><tr><td>⑪</td><td>使用機械、工具等の持ち込み時点検、日常点検、法定検査の記録、取扱者の任命と表示などを確認できる場合は評価「レ」する。</td></tr><tr><td>⑫</td><td>監督員による臨場又は写真等で確認し、計画書や状況写真が整備されていれば評価「レ」する。</td></tr><tr><td>⑬</td><td>啓発、PR、下請業者に対する指導等を行い、過積載防止の記録が確認できた場合は評価「レ」する。対象にならない場合は削除(対象を空白「□」)とする。</td></tr><tr><td>⑭</td><td>「施工プロセス」の「Ⅲ. 安全対策」で指摘事項があり、改善が遅い場合や指摘事項が多い場合は空白「□」とする。</td></tr><tr><td>⑮</td><td>その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。</td></tr></table>	①	災害防止協議会等の実施が、書面により確認できれば評価「レ」する。	②	バトロールの実施が書面により確認できれば評価「レ」する。	③	安全確認事項が適切で指摘がない、または指摘を受けたがその後の措置が適切であれば評価「レ」し、安全確認事項が不適切、または再三の改善指示があれば空白「□」とする。	④	法令等に基づく安全教育・訓練等の実施が書面により確認できれば評価「レ」する。	⑤	安全施工サイクルを日常的に励行し、安全衛生日誌などの書面により確認できれば評価「レ」する。	⑥	工事現場に関する教育資料等により確認できれば評価「レ」する。	⑦	安全のために現場の各工程において、その時その場に応じて、墜落・転落、飛来・落下、火災、感電等の対策を行っていれば評価「レ」する。	⑧	監督員による臨場又は写真等で確認できれば評価「レ」する。重機作業がない場合は削除(対象を空白「□」)とする。	⑨	点検及び管理状況の記録(チェックリスト等)があれば評価「レ」する。山留め等がない場合は削除(対象を空白「□」)とする。	⑩	点検及び管理状況の記録(チェックリスト等)があれば評価「レ」する。足場や支保工等仮設工事がない場合は削除(対象を空白「□」)とする。	⑪	使用機械、工具等の持ち込み時点検、日常点検、法定検査の記録、取扱者の任命と表示などを確認できる場合は評価「レ」する。	⑫	監督員による臨場又は写真等で確認し、計画書や状況写真が整備されていれば評価「レ」する。	⑬	啓発、PR、下請業者に対する指導等を行い、過積載防止の記録が確認できた場合は評価「レ」する。対象にならない場合は削除(対象を空白「□」)とする。	⑭	「施工プロセス」の「Ⅲ. 安全対策」で指摘事項があり、改善が遅い場合や指摘事項が多い場合は空白「□」とする。	⑮	その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。
		①		災害防止協議会等の実施が、書面により確認できれば評価「レ」する。																													
②	バトロールの実施が書面により確認できれば評価「レ」する。																																
③	安全確認事項が適切で指摘がない、または指摘を受けたがその後の措置が適切であれば評価「レ」し、安全確認事項が不適切、または再三の改善指示があれば空白「□」とする。																																
④	法令等に基づく安全教育・訓練等の実施が書面により確認できれば評価「レ」する。																																
⑤	安全施工サイクルを日常的に励行し、安全衛生日誌などの書面により確認できれば評価「レ」する。																																
⑥	工事現場に関する教育資料等により確認できれば評価「レ」する。																																
⑦	安全のために現場の各工程において、その時その場に応じて、墜落・転落、飛来・落下、火災、感電等の対策を行っていれば評価「レ」する。																																
⑧	監督員による臨場又は写真等で確認できれば評価「レ」する。重機作業がない場合は削除(対象を空白「□」)とする。																																
⑨	点検及び管理状況の記録(チェックリスト等)があれば評価「レ」する。山留め等がない場合は削除(対象を空白「□」)とする。																																
⑩	点検及び管理状況の記録(チェックリスト等)があれば評価「レ」する。足場や支保工等仮設工事がない場合は削除(対象を空白「□」)とする。																																
⑪	使用機械、工具等の持ち込み時点検、日常点検、法定検査の記録、取扱者の任命と表示などを確認できる場合は評価「レ」する。																																
⑫	監督員による臨場又は写真等で確認し、計画書や状況写真が整備されていれば評価「レ」する。																																
⑬	啓発、PR、下請業者に対する指導等を行い、過積載防止の記録が確認できた場合は評価「レ」する。対象にならない場合は削除(対象を空白「□」)とする。																																
⑭	「施工プロセス」の「Ⅲ. 安全対策」で指摘事項があり、改善が遅い場合や指摘事項が多い場合は空白「□」とする。																																
⑮	その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。																																
☒ ☐ ②店社/バトロールを1回／月以上実施し、記録が整備されている。	(減点)該当すればc評価とする。 ☐ 安全対策に関して、法令遵守の措置内容に該当する場合。 (減点)該当すればd評価とする。 ☐ 安全対策に関して、監督職員から文書による改善指示を行った。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 安全対策に関して、監督職員からの文書による改善指示に従わなかった。																																
☒ ☐ ③各種安全/バトロールで指摘を受けた事項について、速やかに改善を図り、かつ関係者に是正指示している。																																	
☒ ☐ ④安全教育・安全訓練等を適時適切に実施し、記録が整備されている。																																	
☒ ☐ ⑤安全巡視、TBM、KY等を実施し、記録を整備している。																																	
☒ ☐ ⑥新規入場者教育を実施し、実施内容に現場の特性が反映され、記録が整備されている。																																	
☒ ☐ ⑦現場の各工程において適時適切に、安全管理の措置をしている。																																	
☒ ☐ ⑧重機操作に際して、誘導員配置や重機と人の行動範囲の分離措置がなされている。																																	
☐ ☐ ⑨山留め等について、設置後の点検及び管理がチェックリスト等を用いて実施されている。																																	
☒ ☐ ⑩仮設工事において、設置完了時や使用中の点検及び管理がチェックリスト等を用いて実施されている。																																	
☒ ☐ ⑪使用機械、工具等の点検整備等がなされ、十分に管理されている。																																	
☒ ☐ ⑫工事現場における保安設備等の設置・管理が適切であり、よく整備されている。																																	
☒ ☐ ⑬過積載防止に十分に取り組んでいる。																																	
☒ ☐ ⑭「施工プロセス」チェックリストのうち、施工体制一般について指示事項が無い。または指示事項に対する改善が速やかに実施されている。																																	
☐ ☐ ⑮その他																																	
	理由:																																
評価																																	
a:安全対策が優れている。 b:安全対策が良好である。 c:安全対策が適切である。 d:安全対策がやや不適切である。 e:安全対策が不適切である。																																	
該当項目が90%以上..... a		① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。																															
該当項目が80%以上90%未満..... b		② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。																															
該当項目が60%以上80%未満..... c		③ 評価値(%)＝(評価数／対象評価項目数)×100																															
該当項目が60%未満..... d																																	
	評価＝ d	0項 13 項目 0%																															

審査項目	細 別	対象	評価対象項目
2. 施工状況	IV. 対外関係	☒	☐ ① 工事施工にあたり、関係官公署等の関係機関と協議及び調整を行い、トラブルの発生がない。
		☒	☐ ② 工事施工にあたり、近隣住民(入居官署等を含む)と適切に協議及び調整を行っている。
		☒	☐ ③ 引渡し時に入居官署に対し、保守管理について適切な説明を行っている。
		☒	☐ ④ 工事の目的及び内容を、工事看板などにより地域住民や通行者等に分かりやすく周知している。
		☒	☐ ⑤ 近隣住民(入居官署等を含む)対策を実施し、苦情がない。または苦情に対して適切な対応を行い、以後のトラブルがない。
		☒	☐ ⑥ 現場のイメージアップに、取り組んでいる。
		☒	☐ ⑦ 「施工プロセス」チェックリストのうち、施工体制一般について指示事項が無い。または指示事項に対する改善が速やかに実施されている。
		☐	☐ ⑧ その他 理由:
(減点) 該当すればd評価とする。 ☐ 対外関係に関して監督職員から文書による改善指示を行った。 (減点) 該当すればe評価とする。 ☐ 対外関係に関して、監督職員からの文書による改善指示に従わなかった。			
評価			
a: 対外関係が優れている。 b: 対外関係が良好である。 c: 対外関係が適切である。 d: 対外関係がやや不適切である。 e: 対外関係が不適切である。			
該当項目が90%以上・・・ a		① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。	
該当項目が80%以上90%未満・・・ b		② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。	
該当項目が60%以上80%未満・・・ c		③ 評価値(%) = (評価数 / 対象評価項目数) × 100	
該当項目が60%未満・・・ d			
	評価 = d	0項	7 項目 0%

評価に係る観点(運用)	
①	調整協議の資料が適切であれば評価「レ」する。調整等が不要の場合は削除(対象を空白「□」)とする。
②	適切な調整をした事実が記録等で確認できれば評価「レ」する。不要な場合は削除(対象を空白「□」)とする。
③	入居官署に対して、受注者として保守管理(取扱説明を含む)についての資料を整理し、十分な説明を行っている場合、評価「レ」する。資料がなく説明も行っていない場合は空白「□」とする。
④	工事看板。広報誌、ホームページ等により、工事の目的及び内容等を地域住民等に分かりやすく周知している場合は評価「レ」する。
⑤	近隣住民(入居官署を含む)から、苦情がなかった又は苦情に対して的確に対応した場合、評価「レ」する。不適切又は発注者任せの対策による対応であるか、軽微な苦情が再三ある場合は空白「□」とする。
⑥	企業努力の範囲内で評価「レ」する。(イメージアップの例: 休憩所・水洗便所・シャワー室や夜間照明設備の設置等作業環境の改善、仮囲いのデザイン・フラワーボックスの設置等作業現場の美化、工事のPR)
⑦	「施工プロセス」の「IV. 対外関係」で指摘事項があり、改善が遅い場合や指摘事項が多い場合は空白「□」とする。
⑧	その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。

審査項目	細 別	対象	評価対象項目	評価に係る観点(運用)	
3. 出来形及び出来ばえ	I. 出来形	☒	☐ ①承諾図等が、設計図書を満足している。	①	設計図書等に規定された製品・機器類の形状、寸法、数量、位置の出来形が承諾図、カタログ等により確認できれば評価「レ」する。
		☒	☐ ②施工図等が、設計図書を満足している。	②	施工計画書、施工図、総合図(天井伏図、スリーブ図等)等により、出来形(形状、寸法、位置、数量、経路等)が確認できれば評価「レ」する。
		☒	☐ ③現場における出来形が設計図書を満足し、適切な施工である。	③	躯体・仕上げにおいては出来形が許容範囲内であることが確認できれば評価「レ」する。設備工事においては機器の設置位置、材料の施工寸法、配管及びダクトの経路等の適切さが確認できれば評価「レ」する。
		☒	☐ ④施工計画書等で定めた出来形の管理基準に基づき、管理している。	④	施工の出来形に対する確認記録があり、内容が適切であれば評価「レ」する。
		☒	☐ ⑤出来形の管理記録が適切にまとめられており、結果が良好である。	⑤	現場における出来形が管理記録と相違ないことが確認できれば評価「レ」する。
		☒	☐ ⑥出来形の管理方法を工夫している。	⑥	自社独自の管理基準で出来形を管理しているなど、出来形に対する管理方法に工夫があれば評価「レ」する。
		☒	☐ ⑦解体又は撤去工事の場合、撤去対象物の範囲等が確認でき、処分が適切である。	⑦	撤去対象物の名称、数量、範囲等が関係資料により確認できれば評価「レ」する。(最低限マニフェストによる確認を行う。)該当しない場合は削除(対象を空白「□」)とする。
		☒	☐ ⑧不可視部分となる出来形が、工事写真、施工記録により確認できる。	⑧	埋設部分及び隠蔽部分等の不可視となる部分は、工事写真により確認できれば評価「レ」する。(撤去対象物を含む。)
		☐	☐ ⑨その他	⑨	その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。
					理由:
			(減点)該当すればd評価とする。		
			☐ 出来形の管理に関して、監督職員から文書による改善指示を行った。		
			(減点)該当すればe評価とする。		
			☐ 工事請負契約書第17条に基づき監督職員が改造請求を行った。		
評価					
a: 出来形が優れている。 b: 出来形が良好である。 c: 出来形が適切である。 d: 出来形がやや不適切である。 e: 出来形が不適切である。					
該当項目が90%以上..... a		① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。			
該当項目が80%以上90%未満..... b		② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。			
該当項目が60%以上80%未満..... c		③ 評価値(%)＝(評価数÷対象評価項目数)×100			
該当項目が60%未満..... d					
	評価＝ d	0項	8 項目	0%	

※1. 出来形の対象は「材料、機材」と「施工の完了したもの」であり、工事的物の形状、寸法、位置、数量並びに管理記録と設計図書を対比することにより評価を行う。

審査項目	細 別	対象	評価対象項目
3. 出来形及び出来ばえ	II.品質	☒	☐ ①材料・製品の品質が、製作図等により確認でき、設計図書を満足している。 ☐ ②品質確認記録の内容が、適切である。 ☐ ③施工の各段階における完了時の、品質が適切である。 ☐ ④躯体工事における施工の品質が、良好である。 ☐ ⑤内外仕上げ工事における施工の品質が、良好である。 ☐ ⑥不可視部分となる品質確認のための工事写真、施工記録等が整備されている。 ☐ ⑦その他 理由:
	建築工事	☒	
	工事比率	☒	
	1.00	☒	
		☒	
		☒	
	☐		
			(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 品質の管理に関して、監督職員から文書による改善指示を行った。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 工事請負契約書第17条に基づき監督職員が改造請求を行った。
評価			
a: 品質が優れている。 b: 品質が良好である。 c: 品質が適切である。 d: 品質がやや不適切である。 e: 品質が不適切である。			
該当項目が90%以上・・・ a		① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。	
該当項目が80%以上90%未満・・・ b		② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。	
該当項目が60%以上80%未満・・・ c		③ 評価値(%)＝(評価数／対象評価項目数)×100	
該当項目が60%未満・・・ d			
	評価＝ d	0項	6 項目 0%

評価に係る観点(運用)	
①	設計図書等に規定された材料・製品の品質が承諾図、カタログ等で確認できれば評価「レ」する。
②	機材・製品、施工の品質確認を行っていることが書面等で確認できれば評価「レ」する。
③	施工の各段階における品質が施工計画書に記載された要領、管理方法等で確認できれば評価「レ」する。
④	躯体工事における施工の品質が施工計画書に記載された要領、管理方法等を確認できれば評価「レ」する。躯体工事がない場合は削除(対象を空白「□」)とする。
⑤	内外仕上げ工事における施工の品質が施工計画書に記載された要領、管理方法等を確認できれば評価「レ」する。仕上げ工事がない場合は削除(対象を空白「□」)とする。
⑥	埋設部分、隠蔽部分等の不可視部分となる機材の材質、性能、機能等の適切さが工事写真により確認できれば評価「レ」する。
⑦	その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。

※1. 目的物の品質の水準を評価すること。

※2. 品質の対象は、「材料、機材」と「施工が完了したもの(システムを含む)」があり、工事目的物の品質及び品質管理に関する各種の記録と設計図書を対比することにより技術的な評価を行う。

※3. デザインビルド方式等で建築工事・電気設備工事・暖冷房衛生設備工事等が2工種以上複合している工事については、それぞれの工種毎に評価し、工事費内訳による加重平均などの方法によってよいものとする。また、改修工事等で付帯工事を含む場合は、主要工事で評価するものとし工事比率は1.0とする。

審査項目	細 別	対象	評価対象項目
3. 出来形及び出来ばえ	II.品質	☒	☐ ①機材の品質が、承諾図等により確認でき、設計図書を満足している。 ☐ ②施工の各段階における完了時の試験方法及び記録の方法が、適切である。 ☐ ③品質確認記録の内容が、適切である。 ☐ ④システムの性能及び機能に関する試運転、確認方法等が適切であり、記録の内容が設計図書を満足している。 ☐ ⑤機材及び施工の品質が、良好である。 ☐ ⑥不可視部分となる品質確認のための工事写真、施工記録等が整備されている。 ☐ ⑦その他 理由： (減点)該当すればd評価とする。 ☐ 品質の管理に関して、監督職員から文書による改善指示を行った。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 工事請負契約書第17条に基づき監督職員が改造請求を行った。
	電気設備工事	☐	
	受変電設備工事	☐	
	工事比率	☐	
	0.00	☐	
		☐	
評価			
a: 品質が優れている。 b: 品質が良好である。 c: 品質が適切である。 d: 品質がやや不適切である。 e: 品質が不適切である。			
該当項目が90%以上・・・ a		① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。	
該当項目が80%以上90%未満・・・ b		② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。	
該当項目が60%以上80%未満・・・ c		③ 評価値(%)＝(評価数／対象評価項目数)×100	
該当項目が60%未満・・・ d			
	評価＝ d	0項	1 項目 0%

評価に係る観点(運用)	
①	設計図書等に規定された機材の品質が承諾図、カタログ(機器の耐震計算書を含む。)等で確認できれば評価「レ」する。
②	施工の各段階における、各種の試験や記録の内容が適切であれば評価「レ」する。
③	機材の品質確認を行っていることが書面等で確認でき、その結果が良好であれば評価「レ」する。
④	設計図書等に規定された性能及び機能(シーケンス、総合動作等)の確認方法が適切であり、記録の内容が設計図書を満足していれば評価「レ」する。
⑤	絶縁抵抗、耐電圧、動作試験等個々の施工に関する試験等に合格していることが試験成績書等で確認でき、適切な施工であれば評価「レ」する。
⑥	埋設部分、隠蔽部分等の不可視部分となる機材の材質、性能、機能等の適切さが工事写真等により確認できれば評価「レ」する。
⑦	その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。

※1. 目的物の品質の水準を評価すること。

※2. 品質の対象は、「材料、機材」と「施工が完了したもの(システムを含む)」があり、工事目的物の品質及び品質管理に関する各種の記録と設計図書を対比することにより技術的な評価を行う。

※3. デザインビルド方式等で建築工事・電気設備工事・暖冷房衛生設備工事等が2工種以上複合している工事については、それぞれの工種毎に評価し、工事費内訳による加重平均などの方法によってよいものとする。また、改修工事等で付帯工事を含む場合は、主要工事で評価するものとし工事比率は1.0とする。

審査項目	細 別	対象	評価対象項目	評価に係る観点(運用)		
3. 出来形及び出来ばえ 暖冷房衛生設備工事 機械設備工事	II.品質	☒	☐ ①機材の品質が、承諾図等により確認でき、設計図書を満足している。 ☐ ②品質確認記録の内容が、適切である。 ☐ ③施工の各段階における完了時の試験方法及び記録の方法が、適切である。 ☐ ④システムの性能及び機能に関する試運転、確認方法等が適切であり、記録の内容が設計図書を満足している。 ☐ ⑤機材及び施工の品質が、良好である。 ☐ ⑥不可視部分となる品質確認のための工事写真、施工記録等が整備されている。 ☐ ⑦その他 理由： (減点)該当すればd評価とする。 ☐ 品質の管理に関して、監督職員から文書による改善指示を行った。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 工事請負契約書第17条に基づき監督職員が改造請求を行った。	①	設計図書等に規定された機材の品質が承諾図、カタログ(機器の耐震計算書を含む。)等で確認できれば評価「レ」する。	
		☐		②	機材の品質確認を行っていることが書面等で確認でき、その結果が良好であれば評価「レ」する。	
		☐		③	施工の各段階における、各種の試験や記録の内容が適切であれば評価「レ」する。	
	工事比率	☐		④	設計図書等に規定された性能及び機能(空調温・湿度、監視制御、風量、水量、騒音値、飲料水水质等)の確認方法が適切であり、記録の内容が設計図書を満足していれば評価「レ」する。	
	0.00	☐		⑤	ダクト及び配管の試験(風量、振動、騒音、耐圧、水圧、通水等)、動作、絶縁抵抗等個々の施工に関する試験等に合格していることが試験成績書等で確認でき、適切な施工であれば評価「レ」する。	
		☐		⑥	埋設部分、隠蔽部分等の不可視部分となる機材の材質、性能、機能等の適切さが工事写真等により確認できれば評価「レ」する。	
		☐		⑦	その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。	
		※1. 機械設備工事とは、エレベーター、エスカレーター設備工事等の建設業法における機械器具設置工事をいう。 ※2. 目的物の品質の水準を評価すること。 ※3. 品質の対象は、「材料、機材」と「施工が完了したもの(システムを含む)」があり、工事目的物の品質及び品質管理に関する各種の記録と設計図書を対比することにより技術的な評価を行う。 ※4. デザインビルド方式等で建築工事・電気設備工事・暖冷房衛生設備工事等が2工種以上複合している工事については、それぞれの工種毎に評価し、工事費内訳による加重平均などの方法によってよいものとする。また、改修工事等で付帯工事を含む場合は、主要工事で評価するものとし工事比率は1.0とする。				
	評価					
	a:品質が優れている。 b:品質が良好である。 c:品質が適切である。 d:品質がやや不適切である。 e:品質が不適切である。					
該当項目が90%以上…… a		① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。				
該当項目が80%以上90%未満…… b		② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。				
該当項目が60%以上80%未満…… c		③ 評価値(%)=(評価数/対象評価項目数)×100				
該当項目が60%未満…… d						
	評価＝ d	0項	1 項目 0%			
品質の評価計＝ d				0 項目 0%		

(創意1/2)

審査項目・細別		評価対象項目
5.創意工夫	■準備・後片づけ関係	☐ 測量・位置出しにおける工夫 ☐ 現地調査方法の工夫 ☐ その他 理由: 詳細評価内容:
	■施工関係	☐ 施工に伴う器具・工具・装置類の工夫 ☐ 工場加工製品等の活用による副産物及び廃棄物の減少またはリサイクルに対する積極的な取組み ☐ 土工事、地業工事、鉄骨建て方、コンクリート工事等の施工関係の工夫 ☐ 建築材料・機材等の運搬・搬入等を含む施工方法に工夫 ☐ 電気設備工事等の配線、配管等の工夫 ☐ 暖冷房衛生設備工事等の配管、ダクト等の工夫 ☐ 照明・視界確保等の工夫 ☐ 仮排水、仮道路、迂回路等の計画・施工の工夫 ☐ 運搬車両・施工機械等の工夫 ☐ 型枠、足場、山留め等の仮設関係の工夫 ☐ 施工管理及び品質向上等の工夫 ☐ プレハブ工法等の採用による工期短縮等の工夫 ☐ 仮設施工等の工夫 ☐ 既存施設・近隣等に対する騒音・振動対策等の工夫 ☐ 保全への配慮による材料選定・施工方法等の工夫 ☐ 作業の安全性向上のための施工方法等の工夫 ☐ その他 理由: 詳細評価内容:
	■品質関係	☐ 集計ソフト等の活用と工夫 ☐ 躯体工事の品質管理の工夫 ☐ 建築材料・機材の検査・試験に関する工夫 ☐ 施工の検査・試験に関する工夫 ☐ 品質記録方法の工夫 ☐ その他 理由: 詳細評価内容:

- ※1. 特に評価すべき創意工夫事例を加点評価する。
- ※2. 該当する数と重みを勘案して評価する。1項目1点を目安とするが、項目により2、4点で評価し、最大7点の加点評価とする。
- ※3. 上記の審査項目の他に評価に値する企業の工夫があれば、その他に具体的内容を記載して加点する。

なお、工事所管課長が評価する「工事特性」との二重評価は行わない。
- ※4. 入札時の総合評価の提案に係る項目は評価しない。
- ※5. レ点を付した評価対象項目について、評価内容及び効果があった項目を詳細評価内容欄に記載する。
- ※6. 創意工夫においては、「①施工計画書に記載された事項」または「②事前に受注者から創意工夫に関する資料が提出された事項」が、施工等に反映されていれば評価するものとする。
- ※7. 創意工夫は「1. 施工体制」及び「2. 施工状況」においても評価対象とされるが、企業努力を引き立たせるため本審査項目でも再評価する。
- ※8. 評価対象項目の選定及び詳細評価内容の記述は、工事所管課長との合議による。
- ※9. その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。適用以外は削除(対象を空白「□」)とする。
- ※10. NETIS登録技術の活用は、NETIS登録技術を「施工者希望型」で試行及び活用した場合に限る。

(創意2/2)

審査項目・細別		評価対象項目
5.創意工夫	■安全衛生関係	☐ 安全仮設備等の工夫(落下物、墜落・転落、挟まれ、看板、立入禁止柵、手摺り、足場等) ☐ 安全衛生教育、技術向上講習会等、ミーティング、安全パトロール等に関する工夫 ☐ 現場事務所、休憩所等の環境向上の工夫、 ☐ 酸欠対策・有毒ガス・可燃ガスの処理または粉塵防止策や作業中の換気等の工夫 ☐ 周辺道路等の事故防止または一般交通確保等のための工夫 ☐ 改修工事における既存施設利用者等に対する安全対策の工夫 ☐ 作業時における作業環境改善等の工夫 ☐ ゴミの減量化、アイドリングストップの励行等の地球環境への工夫 ☐ その他 理由:
		詳細評価内容:
	■施工管理関係	☐ 出来形の管理等に関する工夫 ☐ 施工計画書または写真記録等に関する工夫 ☐ 出来形・品質に関する計測等の工夫及び集計の工夫 ☐ CAD、施工管理ソフト等の活用 ☐ CALSを活用した施工管理の工夫 ☐ その他 理由:
		詳細評価内容:
	■その他	<新技術活用>※新技術に関する下記3項目での加点は最大4点とする。 ☐ NETIS登録技術のうち、試行技術を活用した。(2点) ☐ 活用した試行技術が少実績優良技術もしくは、当該工事において発注者による活用効果調査結果の総合評価点が120点以上の場合。(2点) ☐ NETIS登録技術(試行技術を除く)のうち、『有用とされる技術』を活用するか、『有用とされる技術』以外の技術を活用した結果、当該工事において発注者による活用効果調査の総合評価点が120点以上の場合。(4点) <その他> ☐ その他 理由: ☐ その他 理由:
		詳細評価内容:
(最大 7点)		
評点計= 0 点		

考查項目	細 別	評価対象項目
2. 施工状況	II. 工程管理	☐ ①現場又は施工条件の変更等による工期的な制約がある中で、余裕をもって工事を完成させた。 ☐ ②隣接又は同一現場の他工事等との積極的な工程調整を行い、トラブルを回避した。 ☐ ③近隣住民（入居官署等を含む）調整を積極的に行い、トラブルも少なく、工期内に工事を完成させた。 ☐ ④配置技術者（現場代理人等）の積極的な工程管理の姿勢が見られた。 ☐ ⑤その他 理由：
詳細評価内容：		
a: 工程管理が優れている。 b: 工程管理が良好である。 c: 工程管理が適切である。 d: 工程管理がやや不適切である。 e: 工程管理が不適切である。		
評価＝ c		評価選択 ☐ a ☐ b ☒ c ☐ d ☐ e ※上記評価対象項目のうち、該当項目を総合的に判断して、a、b、c、d、e評価を行う。
2. 施工状況	III. 安全対策	☐ ①建設労働災害、公衆災害の防止への努力が顕著である。 ☐ ②安全衛生管理体制を確立し、組織的に取り組んでいる。 ☐ ③安全衛生管理活動が、適切に実施されている。 ☐ ④安全管理に関する技術開発や創意工夫に取り組んでいる。 ☐ ⑤安全協議会活動に積極的に取り組んでいる。 ☐ ⑥その他 理由：
詳細評価内容：		
a: 安全対策が優れている。 b: 安全対策が良好である。 c: 安全対策が適切である。 d: 安全対策がやや不適切である。 e: 安全対策が不適切である。		
評価＝ c		評価選択 ☐ a ☐ b ☒ c ☐ d ☐ e ※上記評価対象項目のうち、該当項目を総合的に判断して、a、b、c、d、e評価を行う。
6. 社会性等	I. 地域への貢献等	☐ ①災害時等に地域への救援活動等に協力した。 ☐ ②周辺地域の環境保全、生物保護等について、具体的な対策をした。 ☐ ③現場事務所や作業現場の環境を周辺地域との景観に合わせる等、周辺地域との調和を図った。 ☐ ④広報活動や現場見学会等を実施して、地域とのコミュニケーションを図った。 ☐ ⑤地域イベントへの協力やボランティア活動等への協力や参加をした。 ☐ ⑥その他 理由：
詳細評価内容：		
a: 地域への貢献が優れている。 a' : 地域への貢献がやや優れている。 b: 地域への貢献が良好である。 b' : 地域への貢献がやや良好である。 c: 他の評価に該当しない。		
評価＝ c		評価選択 ☐ a ☐ a' ☐ b ☐ b' ☒ c ※上記評価対象項目のうち、該当項目を総合的に判断して、a、a'、b、b'、c評価を行う。

評価に係る観点(運用)	
①	実施工程表、施工報告書及び施工体制書類などを基に、総合的に判断して評価する。
②	調整協議の資料などを基に、総合的に判断して評価する。
③	調整協議の資料などを基に、総合的に判断して評価する。
④	実施工程表、施工報告書及び施工体制書類などを基に、総合的に判断して評価する。
⑤	※その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。
※1. 工事所管課長は、監督員の意見を参考に総括的な評価を行う、	
※2. 評価に当たっては評価対象項目のレ点の数にとらわれず、一項目でも評価する内容が充実している場合は、総合的な視点で判断し評価する。	
※3. 地域への貢献等とは、工事の施工に伴って、地域社会や住民に対する配慮等の貢献について加点評価する。	
※4. レ点を付した評価対象項目について、評価内容及び効果があった項目を詳細評価内容欄に記載する。	
①	現場への臨場、工事写真及び安全衛生関係書類などを基に、総合的に判断して評価する。
②	現場への臨場、工事写真及び安全衛生関係書類などを基に、総合的に判断して評価する。
③	現場への臨場、工事写真及び安全衛生関係書類などを基に、総合的に判断して評価する。
④	現場への臨場、工事写真及び安全衛生関係書類などを基に、総合的に判断して評価する。
⑤	現場への臨場、工事写真及び安全衛生関係書類などを基に、総合的に判断して評価する。
⑥	※その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。
※1. 工事所管課長は、監督員の意見を参考に総括的な評価を行う、	
※2. 評価に当たっては評価対象項目のレ点の数にとらわれず、一項目でも評価する内容が充実している場合は、総合的な視点で判断し評価する。	
※3. 地域への貢献等とは、工事の施工に伴って、地域社会や住民に対する配慮等の貢献について加点評価する。	
※4. レ点を付した評価対象項目について、評価内容及び効果があった項目を詳細評価内容欄に記載する。	
①	自然災害・火災時等に人的協力、物資援助等を行っていることが臨場、工事写真等により確認できる場合は、総合的に判断して評価する。
②	河川・地下水・大気汚染の防止や動植物の保護等を行っていることが臨場、工事写真等により確認できる場合は、総合的に判断して評価する。
③	仮囲いのデザイン、フラワーボックスの設置、現場事務所の配置・形状・配色等の配慮が、臨場、工事写真等により確認できる場合、総合的に判断して評価する。
④	建設業のイメージアップや現場の進捗状況周知のための掲示板、回覧板、地域集会での報告、見学会の実施等が、臨場、工事写真等により確認できる場合、総合的に判断して評価する。
⑤	交通安全週間、火災予防週間、地域一斉清掃、除雪、地域のお祭りへの協力等が、臨場、工事写真等により確認できる場合、総合的に判断して評価する。
⑥	※その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。
※1. 工事所管課長は、監督員の意見を参考に総括的な評価を行う、	
※2. 評価に当たっては評価対象項目のレ点の数にとらわれず、一項目でも評価する内容が充実している場合は、総合的な視点で判断し評価する。	
※3. 地域への貢献等とは、工事の施工に伴って、地域社会や住民に対する配慮等の貢献について加点評価する。	
※4. レ点を付した評価対象項目について、評価内容及び効果があった項目を詳細評価内容欄に記載する。	

(特性1／3)

考査項目 (細別)	評価対象項目	
4. 工事特性 (施工条件等への対応)	■建物規模への対応	※下記の対応事項に1つ以上レ点が付けば2点の加点とする。 ☐ 延べ面積10,000㎡以上の建物 ☐ 地上9階以上又は建物高さ31m以上の建物 ☐ 大空間のホール等を有する建物 ☐ その他(理由:)
		詳細評価内容:
	評 点 = 0 点	
	■建物固有の機能の難しさへの対応	※下記の対応事項に1つ以上レ点が付けば2点の加点とする。 ☐ 対象建物の耐震レベル ☐ 建物機能の特殊性 ☐ その他(理由:) [評価技術事例] ・建築工事で官庁施設の総合耐震計画基準においてⅠ類及びA類に属する工事 ・電気又は暖冷房衛生設備工事で官庁施設の総合耐震計画基準において甲類に属する工事 ・研究施設、美術館等、特殊機能・設備の有る建物
		詳細評価内容:
	評 点 = 0 点	
	■建物固有の施工技術の難しさへの対応	※下記の対応事項に1つ以上レ点が付けば2点の加点とする。 ☐ 建築材料、設備機材、工法について、提案がある場合 【総合評価における技術提案は除く】 ☐ 設計条件として、工法、材料及び設備システム(機材を含む)の特殊性 ☐ 制約条件等があり、施工難度が特に高い場合 ☐ その他(理由:) [評価技術事例] ・パイロット工事。又は特異な試験フィールド工事で特許工法等の技術的に検討が必要な工事 ・特殊な工法及び材料等を採用した工事 ・特殊な設備システムを採用した工事 ・免震装置を設ける工事 ・大規模な山留め工法が必要な工事 ・敷地内又は周辺部の工作物、配管・配線等の大規模な移設、切り直しを行う工事 ・仮設備等を設け、システムを停止することなく配管・配線等の大規模な盛替え等を必要とする改修工事
		詳細評価内容:
	評 点 = 0 点	

「4. 工事特性」 評価に係る観点(運用)

※1. 工事特性は、最大20点の加点評価とする。なお、1項目に複数の内容がある場合又は、対象範囲が広い場合は、それ以上の点数を与えても良い。

※2. 監督員が評価する「創意工夫」との二重評価は行わない。

※3. 評価にあたっては、監督員の意見も参考に評価する。

※4. レ点を付した評価対象項目について、評価内容を詳細評価内容欄に記載する。

※5. 特殊な工事で上記によれない場合は、該当評価対象項目数と重みを勘案して評価する。

※6. 「建物規模への対応」は、新築又は増築工事で評価技術の内容に該当する場合に評価する。改修工事においては、建物規模における全面的な工事を行う場合に適用する。

※7. 工事特性においては、「①施工計画書に記載された事項」または「②事前に受注者から施工の工夫に関する資料が提出された事項」が、施工等に反映されていれば評価するものとする。

※8. その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。適用以外は削除(対象を空白「□」)とする。

(特性2／3)

考查項目 (細別)	評価対象項目	
4. 工事特性 (施工条件等への対応)	■ 厳しい自然・地盤条件への対応	※下記の対応事項に1つ以上レ点が付けば2点の加点とする。 ☐ 湧水の発生、地下水の影響(地盤掘削時) ☐ 軟弱地盤、支持地盤の影響 ☐ 雨・雪・風・気温等の影響 ☐ その他(理由:) [評価技術事例] ・地下水位が高く、ウエルポイント等の排水設備が必要な工事 ・液状化対策工法や地盤改良を伴う工事 ・冬期施工のため、大規模な雪寒冬囲いをする必要があり、冬期の養生温度の管理や施工スペースの制限を受けた工事

審査項目 (細別)	評価対象項目	
4. 工事特性 (施工条件等への対応)	■施工現場での対応 ※下記の対応事項に1つにレ点が付けば4点の加点とし、最大10点とする。 【長期工事における安全確保への対応】 ☐ 12ヶ月を超える工期で事故が無く完成した工事（ただし全面一時中止期間は除く） 【災害等での臨機の措置】 ☐ 地震、台風などにおいて、適切に臨機の対応を行った工事 【施工状況(条件)に対応した施工・工法等】 ☐ 工事の実施にあたり各種の制約があり、工程的にも特に厳しく、施工の制限を受けた工事 ☐ 工程上他工事の制約を受け、機械、人員の増強を行った工事 ☐ 休日・夜間作業が工程の過半を超える工事 ☐ 施設を使用しながらの工事で、工程的な制約が特に厳しい工事 ☐ 特に困難な調整を要する他工事(近接工区)の請負者が複数ある工事 ☐ 外来者の多い施設で、作業範囲内に外来者・通行人等の動線がある工事 ☐ 特殊な室などで、工種が輻輳し困難な調整を要する工事 ☐ 施工ヤードが狭く、高さ制限もあり、施工及び機械の移動や旋回等に制約を受けた工事 ☐ 同一敷地内における施設を使用しながらの建て替え工事で、工程の制約等が特に厳しい工事 ☐ その他(理由:)	
(最大 20点)	詳細評価内容:	
評価点計 = 0 点	評価点 = 0 点	

考査項目	法令遵守等の該当項目一覧表	
8. 法令遵守等	点数	措置内容
	◎	該当無し
	○ -20 点	1.指名停止3ヶ月以上
	○ -15 点	2.指名停止2ヶ月以上3ヶ月未満
	○ -13 点	3.指名停止1ヶ月以上2ヶ月未満
	○ -10 点	4.指名停止2週間以上1ヶ月未満
	○ - 8 点	5.文書注意
	○ - 5 点	6.口頭注意
	○ - 3 点	7.工事関係者事故または公衆災害が発生したが、ヒューマンエラー等軽微であり、口頭注意以上の処分がなかった場合（不問で処分した案件。なお、もらい事故や交通事故は該当しない。）
	□ 0 点	8.総合評価落札方式において、受注者の責により提案を満足する施工が行われない場合等

⇔ 提案不履行の場合の点数は、別シート「(リンク)評定点の一覧」の G40 に入力する。

調査項目	細 別	対象	評価対象項目
2. 施工状況	I. 施工管理	☒	☐ ① 契約書第18条に基づく設計図書の照査結果を、適切に処理していることが確認できる。
		☒	☐ ② 施工計画書が、設計図書及び現場条件を反映した内容となっていることが確認できる。
		☒	☐ ③ 施工計画書に、出来形・品質確保のための記載があり、管理のための方法が確認できる。
		☒	☐ ④ 施工計画書の記載内容と現場施工方法が、一致していることが確認できる。
		☒	☐ ⑤ 工事記録の整備が、適切に行われていることが確認できる。
		☒	☐ ⑥ 使用する材料、機材の搬入後の管理が適切であることが確認できる。
		☒	☐ ⑦ 一工程の施工の確認の報告が、適切に行われていることが確認できる。
		☒	☐ ⑧ 建設廃棄物の処分及び建設副産物等のリサイクルへの取り組みが、適切に行われていることが確認できる。
		☒	☐ ⑨ 社内検査が計画的に行われ、出来形、品質等の管理を工事全般にわたって十分に行っていることが確認できる。
		☒	☐ ⑩ 独自のチェックリスト等の管理基準により、日常的に管理されていることが確認できる。
		☒	☐ ⑪ 工事の関係書類及び資料の整理がよい。
		☐	☐ ⑫ その他 理由:
			(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 施工管理に関して、監督職員から文書による改善指示を行った。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 施工管理に関して、監督職員から文書による改善指示に従わなかった。
評価			
a: 施工管理が優れている。 b: 施工管理が良好である。 c: 施工管理が適切である。 d: 施工管理がやや不適切である。 e: 施工管理が不適切である。			
該当項目が90%以上..... a		① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。	
該当項目が80%以上90%未満.....b		② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。	
該当項目が60%以上80%未満.....c		③ 評価値(%)＝(評価数／対象評価項目数)×100	
該当項目が60%未満..... d			
	評価＝ d	0項	11 項目 0%

評価に係る観点（運用）	
①	設計図書通りに施工できない事実を発見した場合は、工事打合せ簿等を作成し、発注者(監督職員を含む。)との協議により、現場変更または契約変更を適切に行っていれば評価「レ」する(又は現場変更等がなくても照査が適切に行われていた場合も評価する。)
②	施工計画書の内容が設計図書及び現場条件を反映したものとなっている場合は評価「レ」し、記載不足や間違いが多い場合は空白「□」とする。
③	施工計画書に出来形・品質確保のための対策、工夫等(管理のための方法を含む)が記載されている場合は評価「レ」する。
④	施工計画書の記載内容が適切であり、施工方法と施工計画書が一致していれば評価「レ」する。
⑤	工事記録(工事打合せ簿、工事写真、材料搬入、施工報告、施工記録、試験記録等)が適時、的確に行われている場合は、評価「レ」する。
⑥	材料・機材の承諾図が事前に提出され、必要な時に必要な量を手配及び搬入しており、用途に合った適切な使用をし、搬入から引き渡しまでの管理状況が良ければ評価「レ」する。
⑦	施工報告書での報告が適時行われ、出来形及び品質管理が適切であれば評価「レ」する。
⑧	契約図書に則り、処理が適切でマニフェスト等により確認出来れば評価「レ」する。
⑨	適切な資格を持った社内検査員により適時、現場の検査が行われていれば評価「レ」する。
⑩	(発注基準を上回る)自社独自のチェックリスト等の管理基準を用いて、現場管理が日常的に行われていれば評価「レ」する。独自基準が無い場合は、適切に管理されていても評価項目の対象としない。
⑪	全体的に、工事の関係書類及び資料整理がよい場合は、評価「レ」する。
⑫	その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。

評価に係る観点(運用)	
①	設計図書等に規定された製品・機器類の形状、寸法、数量、位置の出来形が承諾図、カタログ等により確認できれば評価「レ」する。
②	施工計画書、施工図、総合図(天井伏図、スリーブ図等)等により、確認できれば評価「レ」する。
③	施工計画書、施工図、総合図(天井伏図、スリーブ図等)等により、出来形(形状、寸法、位置、数量、経路等)が確認できれば評価「レ」する。
④	施工の出来形に対する確認記録があり、内容が適切であれば評価「レ」する。
⑤	施工報告書等で出来形の管理方法に工夫した箇所が確認できれば評価「レ」する。
⑥	躯体・仕上げにおいては出来形が許容範囲内であることが確認できれば評価「レ」する。設備工事においては機器の設置位置、材料の施工寸法、配管及びダクトの経路等の適切さが確認できれば評価「レ」する。
⑦	全般にわたり許容値と実測値が明確に確認でき、形状及び寸法が許容範囲内でバラツキが小さい場合は評価「レ」する。
⑧	埋設部分及び隠蔽部分等の不可視となる部分は、工事写真により確認できれば評価「レ」する。(撤去対象物を含む。)
⑨	撤去対象物の名称、数量、範囲等が関係資料により確認できれば評価「レ」する。(最低限マニフェストによる確認を行う。)該当しない場合は削除(対象を空白「□」)とする。
⑩	その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。

※1. 出来形の対象は「材料、機材」と「施工の完了したもの」であり、工事目的物の形状、寸法、位置、数量並びに管理記録と設計図書を対比することにより評価を行う。

考 査 項 目	細 別	対 象	評 価 対 象 項 目
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ.品質 建築工事	☒	☐ ①材料・製品の品質が、製作図等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。
		☒	☐ ②施工の各段階における完了時の試験及び記録の方法が、適切であることが確認できる。
		☒	☐ ③材料の品質確認記録の内容が、適切であることが確認できる。
		☒	☐ ④品質の確認結果が、分りやすく整理されていることが確認できる。
		☒	☐ ⑤施工の品質が適切であり、設計図書を満足していることが確認できる。
		☒	☐ ⑥建具、ユニット等の性能及び機能に関する確認方法が適切であり、記録の内容が設計図書を満足していることが確認できる。
		☐	☐ ⑦躯体工事における施工の品質が、施工記録等により確認でき、良好であることが確認できる。
		☐	☐ ⑧内外仕上げ工事における施工の品質が、施工記録等により確認でき、良好であることが確認できる。
		☐	☐ ⑨その他の工事（躯体・内外仕上げを除く）における施工の品質が、施工記録等により確認でき、良好であることが確認できる。
		☒	☐ ⑩不可視部分となる品質が、工事写真、施工記録により確認できる。
		☐	☐ ⑪中間検査や既済検査での工夫や良好な施工の品質が、継続して確認できる。
		☐	☐ ⑫その他
			理由：
			(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 品質の管理に関して、監督職員が文書で指示を行い改善された。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 品質が不適切であったため、工事請負契約書第31条に基づく修補指示を検査職員が行った。
評価			
a: 品質が特に優れている。 a': 品質が優れている。 b: 品質が特に良好である。 b': 品質が良好である。 c: 品質が適切である。 d: 品質がやや不適切である。 e: 品質が不適切である。			
該当項目が90%以上・・・ a		① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。	
該当項目が80%以上90%未満・・・ a'		② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。	
該当項目が70%以上80%未満・・・ b		③ 評価値(%)＝(評価数／対象評価項目数)×100	
該当項目が60%以上70%未満・・・ b'			
該当項目が50%以上60%未満・・・ c			
該当項目が50%未満・・・ d			
	評価＝ d	0項	7 項目 0%

評価に係る観点(運用)	
①	設計図書等に規定された材料・製品の品質が承諾図、カタログ等で確認できれば評価「レ」する。
②	施工の各段階における試験及び記録が施工計画書に記載された要領、管理方法等で確認できれば評価「レ」する。
③	機材・製品の品質確認を行っていることが書面等で確認できれば評価「レ」する。
④	品質確認を行っている書面が整理され確認が容易であれば評価「レ」する。
⑤	施工の品質が施工計画書に記載された要領、管理方法等で確認できれば評価「レ」する。
⑥	建具、ユニット等の性能及び機能が施工計画書に記載された要領、管理方法及び現地等により確認できれば評価「レ」する。
⑦	躯体工事における施工の品質が施工計画書に記載された要領、管理方法等により確認できれば評価「レ」する。躯体工事がない場合は削除(対象を空白「□」)とする。
⑧	内外仕上り工事における施工の品質が施工計画書に記載された要領、管理方法等により確認できれば評価「レ」する。仕上り工事がない場合は削除(対象を空白「□」)とする。
⑨	その他の工事(躯体・内外仕上りを除く)における施工の品質が施工計画書に記載された要領、管理方法等により確認できれば評価「レ」する。仕上り工事がない場合は削除(対象を空白「□」)とする。
⑩	埋設部分、隠蔽部分等の不可視部分となる材料・製品、施工の適切さが工事写真により確認できれば評価「レ」する。
⑪	中間検査や既済検査で確認された良好な施工品質、創意工夫が完成検査時に継続して確認できれば評価「レ」する。中間検査や既済検査がない場合は削除(対象を空白「□」)とする。
⑫	その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。

- ※1. 目的物の品質の水準を評価すること。
- ※2. 品質の対象は、「材料、機材」と「施工が完了したもの(システムを含む)」があり、工事目的物の品質及び品質管理に関する各種の記録と設計図書を対比することにより技術的な評価を行う。
- ※3. デザインビルド方式等で建築工事・電気設備工事・暖冷房衛生設備工事等が2工種以上複合している工事については、それぞれの工種毎に評価し、工事費内訳による加重平均などの方法によってよいものとする。また、改修工事等で付帯工事を含む場合は、主要工事で評価するものとし工事比率は1.0とする。

※3. デザインビルド方式等で建築工事・電気設備工事・暖冷房衛生設備工事等が2工種以上複合している工事については、それぞれの工種毎に評価し、工事費内訳による加重平均などの方法によってよいものとする。また、改修工事等で付帯工事を含む場合は、主要工事で評価するものとし工事比率は1:0とする。

審査項目	細 別	対象	評価対象項目
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ.品質	☒	☐ ①機材の品質が、承諾図等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。
	暖冷房衛生設備工事	☐	☐ ②施工の各段階における完了時の試験及び記録の方法が、適切であることが確認できる。
	機械設備工事	☐	☐ ③機材の品質確認記録の内容が、適切であることが確認できる。
	工事比率	☐	☐ ④品質の確認結果が、分りやすく整理されていることが確認できる。
	0.00	☐	☐ ⑤施工の品質が、適切であり、設計図書を満足していることが確認できる。
		☐	☐ ⑥施工の品質が、試験や検査等の結果の記録により、優れていることが確認できる。
		☐	☐ ⑦システムの性能及び機能に関する試運転の確認方法が適切であり、記録の内容が、設計図書を満足していることが確認できる。
		☐	☐ ⑧システムの性能及び機能に関する試運転の確認方法に工夫がある。
		☐	☐ ⑨不可視部分となる品質が、工事写真、施工記録により確認できる。
		☐	☐ ⑩中間検査や既済検査での工夫や良好な施工の品質が、継続して確認できる。
		☐	☐ ⑪運転・点検上の表示及び危険箇所などの表示等が明確で解りやすい。
		☐	☐ ⑫その他
			理由:
			(減点)該当すればd評価とする。
			☐ 品質の管理に関して、監督職員が文書で指示を行い改善された。
			(減点)該当すればe評価とする。
			☐ 品質が不適切であったため、工事請負契約書第31条に基づく修補指示を検査職員が行った。
評価			
a: 品質が特に優れている。 a': 品質が優れている。 b: 品質が特に良好である。 b': 品質が良好である。 c: 品質が適切である。 d: 品質がやや不適切である。 e: 品質が不適切である。			
該当項目が90%以上・・・ a		① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。	
該当項目が80%以上90%未満・・・ a'		② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。	
該当項目が70%以上80%未満・・・ b		③ 評価値(%)＝(評価数／対象評価項目数)×100	
該当項目が60%以上70%未満・・・ b'			
該当項目が50%以上60%未満・・・ c			
該当項目が50%未満・・・ d			
	評価＝ d	0項	1 項目 0%

評価に係る観点(運用)	
①	設計図書等に規定された機材の品質が承諾図、カタログ(機器の耐震計算書を含む。)等で確認できれば評価「レ」する。
②	施工の各段階における、各種の試験や記録の内容が適切であれば評価「レ」する。
③	機材の品質確認を行っていることが書面等で確認できれば評価「レ」する。
④	品質確認を行っている記録が整理され確認が容易であれば評価「レ」する。
⑤	配管の試験(風量、振動、騒音、耐圧、水圧、通水等)、動作、絶縁抵抗等個々の施工に関する試験等に合格していることが試験成績書等で確認でき適切な施工であれば評価「レ」する。
⑥	施工報告書等による試験結果や検査結果等が良好で、施工が優れている場合は評価「レ」する。
⑦	設計図書等に規定された性能及び機能(空調温・湿度、監視制御、風量、水量、騒音値、飲料水水質等、運転状態(EV)、安全装置の作動等(EV))の確認方法が適切であり、記録の内容が設計図書を満足していれば評価「レ」する。
⑧	設計図書等に規定された性能及び機能(空調温・湿度、監視制御、風量、水量、騒音値、飲料水水質等、運転状態(EV)、安全装置の作動等(EV))の確認方法に工夫があれば評価「レ」する。
⑨	埋設部分、隠蔽部分等の不可視部分となる機材の材質、性能、機能等の適切さが工事写真等により確認できれば評価「レ」する。
⑩	中間検査や既済検査で確認された良好な施工品質、創意工夫が完成検査時に継続して確認できれば評価「レ」する。中間検査や既済検査がない場合は削除(対象を空白「□」)とする。
⑪	運転・点検上の表示及び回転部分や高熱部分等の危険箇所などへの注意喚起等が明確にされていれば評価「レ」する。
⑫	その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。

※1. 機械設備工事とは、エレベーター、エスカレーター設備工事等の建設業法における機械器具設置工事をいう。

※2. 目的物の品質の水準を評価すること。

※3. 品質の対象は、「材料、機材」と「施工が完了したもの(システムを含む)」があり、工事目的物の品質及び品質管理に関する各種の記録と設計図書を対比することにより技術的な評価を行う。

※4. デザインビルド方式等で建築工事・電気設備工事・暖冷房衛生設備工事等が2工種以上複合している工事については、それぞれの工種毎に評価し、工事費内訳による加重平均などの方法によってよいものとする。また、改修工事等で付帯工事を含む場合は、主要工事で評価するものとし工事比率は1.0とする。

考査項目	細 別	対象	評価対象項目
3. 出来形及び 出来ばえ	Ⅲ.出来ばえ 建築工事	☒	☐ ①きめ細かな施工がなされ、取り合いの納まりや端部まで仕上がりが良い。
		☒	☐ ②関連工事(工種)又は既存部分との調整がなされ、調和が良い仕上がりにある。
	工事比率	☒	☐ ③使い勝手や使用者の安全に対する配慮に優れている。
	1.00	☒	☐ ④仕上がりの状態が良好で、作動状態も良好である。
		☒	☐ ⑤色調が均一であり、色むら等が無く、全体的な美観が良好である。
		☒	☐ ⑥材料・製品の割付や通り等が良く、全体的な出来ばえが良好である。
		☒	☐ ⑦保全に配慮した施工がなされている。
		☐	☐ ⑧その他 理由:
			(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 出来ばえが劣っている。
評価			
a: 全体的な完成度が優れている。 b: 全体的な完成度が良好である。 c: 全体的な完成度が適切である。 d: 全体的な完成度が劣っている。			
該当項目が90%以上・・・ a		① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。	
該当項目が80%以上90%未満・・・ b		② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。	
該当項目が80%未満・・・ c		③ 評価値(%)＝(評価数／対象評価項目数)×100	
		④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全て該当してもc評価とする。	
	評価＝ c	0項	7 項目 0%

※3. デザインビルド方式等で建築工事・電気設備工事・暖冷房衛生設備工事等が2工種以上複合している工事については、それぞれの工種毎に評価し、工事費内訳による加重平均などの方法によってよいものと評価する。また、改修工事等で付帯工事を含む場合は、主要工事で評価するものと工事比率は1.0とする。

調査項目	細 別	対象	評価対象項目
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ.出来ばえ	☒	☐ ①きめ細やかな施工がなされている。
	電気設備工事	☐	☐ ②関連工事(工種)又は既存部分との調整がなされ、調和が良い仕上がりである。
	受変電設備工事	☐	☐ ③機器又はシステムとして、運転状態が正常であり、性能が優れている。
	工事比率	☐	☐ ④環境負荷低減への対策が優れている。
	0.00	☐	☐ ⑤運転操作及び保守点検等の容易さを確保するための配慮がなされている。
		☐	☐ ⑥その他 理由：
			(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 出来ばえが劣っている。
評価			
a: 全体的な完成度が優れている。 b: 全体的な完成度が良好である。 c: 全体的な完成度が適切である。 d: 全体的な完成度が劣っている。			
該当項目が90%以上・・・ a		① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。	
該当項目が80%以上90%未満・・・ b		② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。	
該当項目が80%未満・・・ c		③ 評価値(%)＝(評価数／対象評価項目数)×100 ④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全て該当してもc評価とする。	
	評価＝ c	0項	1 項目 0%

評価に係る観点（運用）	
①	次の項目に概ね該当すれば評価「レ」し、指示事項が広範囲又は多数該当する場合は空白「□」とする。 ①機材に傷、へこみ、錆等がない。②盤内、天井内配線等の整線が良く、清掃が行き届いている。③表示等(銘板、表示れ、埋設標等)の取り付けにおいて、内容、箇所数、位置等が良好である。④増改設等(スペース、予備等)に対する措置が特に配慮されている。
②	次のような項目に概ね該当すれば評価「レ」し、指示事項が広範囲又は多数該当する場合は空白「□」とする。 ①関連工事(工種)との調整がなされており、全体的に納まり、見ばえ、使い勝手等が良い。②器具の色合いなどについて事前に調整している。③器具等の設置位置をタイル・天井目地に合わせるなどの配慮がある。④既存庁舎(色合い、取合い、保護協調等)との調整がなされ良好である
③	設計図書に規定された運転状態、性能が十分満足できるレベルであれば評価「レ」し、最低限の場合は空白「□」とする。
④	次のような項目に該当すれば評価「レ」し、対策が全く見られない場合は空白「□」とする。 ①グリーン購入法の対象機材は、より環境負荷が小さいもの、またはより高効率のものを使用した。②盤内配線にEMケーブルを使用した。③受注者の提案により、リサイクル材を使用した。
⑤	次の項目に概ね該当すれば評価「レ」し、指示事項が広範囲又は多数該当する場合は空白「□」とする。 ①機器・配管・配線等の納まりが良く、検討不足による危険な箇所や障害物が無い。②施工上避けられない危険な箇所には、保護材や手すり、注意喚起の表示などが取り付けてある。③施設保全マニュアル、保全指導書、取扱説明書等の内容が適切である。(単に製造者の取扱説明書をファイルしたものは不可。) ④運転または操作(異常・非常時を含む。)に関して、施設利用者への対応が適切である。⑤保守点検スペースが適切である。⑥点検口の位置及び数が適切である。⑦予備品、工具等が保守点検を考慮したものとなっている。
⑥	その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。

※1. 全体的な仕上がり状態、機能进行评估する。

※2. 出来ばえの評価は、全体的な仕上がり状態、形状、配置及び関連工事との調和、目的物としての機能などについて、観察、計測等により技術的な評価を行う。

※3. デザインビルド方式等で建築工事・電気設備工事・暖冷房衛生設備工事等が2工種以上複合している工事については、それぞれの工種毎に評価し、工事費内訳による加重平均などの方法によってよいものとする。また、改修工事等で付帯工事を含む場合は、主要工事で評価するものとし工事比率は1.0とする。

調査項目 細 別 対象 評価対象項目			
3. 出来形及び出来ばえ Ⅲ.出来ばえ 暖冷房衛生設備工事 機械設備工事 工事比率 0.00		☒	☐ ①きめ細やかな施工がなされている。 ☐ ②関連工事(工種)又は既存部分との調整がなされ、調和が良い仕上がりである。 ☐ ③機器又はシステムとして、運転状態が正常であり、性能が優れている。 ☐ ④環境負荷低減への対策が優れている。 ☐ ⑤運転操作及び保守点検等の容易さを確保するための配慮がなされている。 ☐ ⑥その他
			理由:
			(減点)該当すればd評価とする。
			☐ 出来ばえが劣っている。
		評価	
		a:全体的な完成度が優れている。 b:全体的な完成度が良好である。 c:全体的な完成度が適切である。 d:全体的な完成度が劣っている。	
該当項目が90%以上・..... a 該当項目が80%以上90%未満・.... b 該当項目が80%未満・.... c ① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%)＝(評価数／対象評価項目数)×100 ④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全て該当してもc評価とする。			
	評価＝ c 0項 1 項目 0%		
出来ばえの評価計＝ c 0 項目 0%			

評価に係る観点（運用）	
①	次のような項目に概ね該当すれば評価「レ」し、指示事項が広範囲又は多数該当する場合は空白「□」とする。 ①機材に傷、へこみ、錆等がない。②保温・塗装の仕上がり良く、手直しがほとんどない。③ダクトの吊りボルト切り口を吊り金物の形鋼内に納め、形鋼の角が落としてある。④(本工事の場合)機器等のコンクリート基礎の仕上がりが良い。⑤機器名称及び配管識別表示、バルブ札等の取り付けが適切である。⑥現場の清掃が行き届いている。
②	次のような項目に概ね該当すれば評価「レ」し指示事項が広範囲又は多数該当する場合は空白「□」とする。 ①関連工事(工種)または既存部分との調整がなされており、全体的に納まり、見ばえ、使い勝手が良い。②器具の色合いなどについて事前に調整している。③器具等の設置位置をタイル・天井目地に合わせるなどの配慮がある。
③	設計図書に規定された運転状態、性能が十分満足できるレベルであれば評価「レ」し、最低限の場合は空白「□」とする。
④	次のような項目に該当すれば評価「レ」し、対策が全く見られない場合は空白「□」とする。 ①グリーン購入法の対象機材は、より環境負荷が小さいもの、または成績係数が高いものを使用した。②盤内配線にEMケーブルを使用した。③受注者の提案により、リサイクル材を使用した。
⑤	次の項目に概ね該当すれば評価「レ」し、指示事項が広範囲又は多数該当する場合は空白「□」とする。 ①機器・配管・ダクト等の納まりが良く、検討不足による危険な箇所や障害物が無い。②保守上避けられない危険な箇所には、保護材や手すり、注意喚起の目印などが取り付けてある。③施設保全マニュアル、保全指導書、取扱説明書等の内容が適切である。(単に製造者の取扱説明書をファイルしたものは不可。)④運転または操作(異常・非常時を含む。)に関して、施設利用者への対応が適切である。⑤保守点検スペースが適切である。⑥点検口の位置及び数が適切である。⑦適切な場所に設備保守用のはしご、タラップ、キャットウォーク、コンセント、水栓等が設置されている。⑧予備品、工具等が保守点検を考慮したものとなっている。
⑥	その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。

※1. 機械設備工事とは、エレベーター、エスカレーター設備工事等の建設業法における機械器具設置工事をいう。

※2. 全体的な仕上がり状態、機能进行评估する。

※3. 出来ばえの評価は、全体的な仕上がり状態、形状、配置及び関連工事との調和、目的物としての機能などについて、観察、計測等により技術的な評価を行う。

※4. デザインビルド方式等で建築工事・電気設備工事・暖冷房衛生設備工事等が2工種以上複合している工事については、それぞれの工種毎に評価し、工事費内訳による加重平均などの方法によってよいものとする。また、改修工事等で付帯工事を含む場合は、主要工事で評価するものとし工事比率は1.0とする。